

# 【基盤研究(S)】

## 人文社会系 (人文学)



### 研究課題名 言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究

琉球大学・国際沖縄研究所・教授 **狩俣 繁久** (Shigeaki Hara)

研究課題番号: 17H06115 研究者番号: 50224712

研究分野: 言語学

キーワード: 琉球諸語、系統研究、日本語史

#### 【研究の背景・目的】

琉球語は、日本語と同系の言語であり、日本語の歴史の研究に重要な位置を占めることが知られている。しかし、これまでの研究は、奈良期中央語と琉球語の一部の下位方言の比較研究が主であり、琉球語研究の成果が日本語の歴史研究に十分に活かされていなかった。また、九州と台湾の間に弧状に連なる50弱の有人島で話されてきた琉球語の下位方言間の変異は、日本語諸方言のそれを超えるほど大きい。その多様性がどのように生成されてきたのかを明らかにすることが求められていた。

#### 【研究の方法】

本研究では、次の3つのタイプの系統樹を作成し、琉球語、九州方言、八丈方言が日琉祖語からどのように分岐して現在に至ったか、琉球語内部でどのような分岐があったかを明らかにする。

- (1) 琉球語の600の下位方言に九州方言と八丈方言を加え、200語で作成する系統樹
- (2) 地域バランスを考慮して選定した琉球語の100の下位方言に九州方言と八丈方言を加え、1100語で作成する系統樹
- (3) 琉球語の辞典10冊に九州方言の辞典2冊と『時代別国語大辞典上代編』を加え、総計約20万語で作成する系統樹

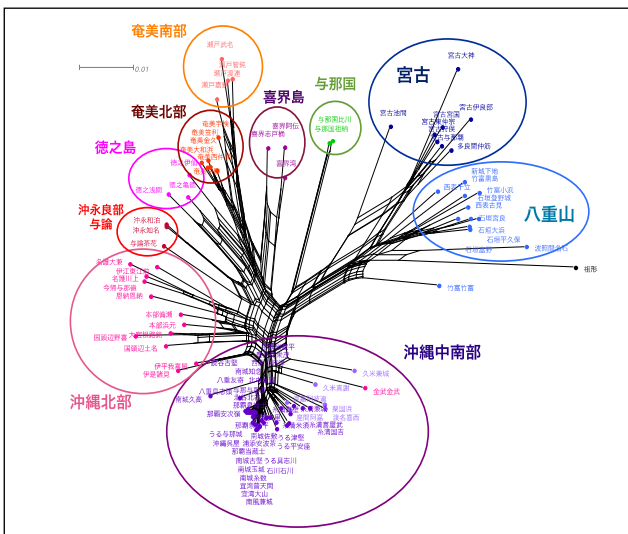


図1 72単語を用いた Neighbor-net ネットワーク

我々は、言語地理学の研究成果に照らして検証しながら、1単語でも系統樹を作成できる数値化の手法を開発した。これによって音素別、意味分野別、文法項目別等、目的に応じて選定した複数の単語を組み合わせて系統樹を作成できることを確認した。

言語には特性の異なる音韻、文法、意味の三つの側面がある。音声形式による系統樹だけでなく、用法や意味を構成する素性ごとに数値化して系統樹を作成し、それぞれの系統特性を解明しながら重層的な変化過程を可視化させる。

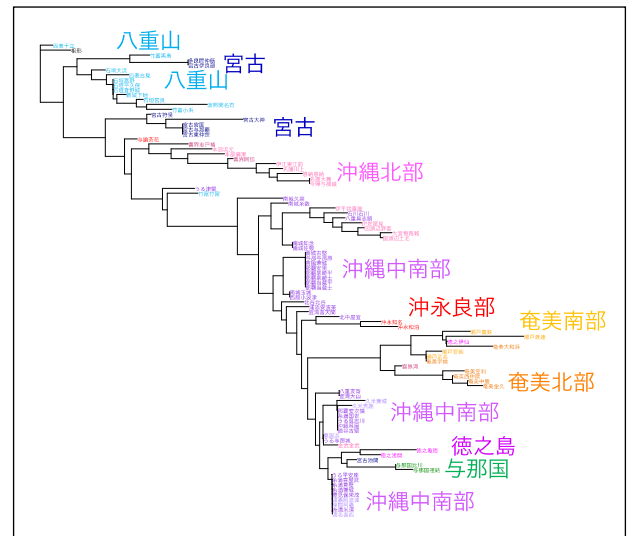


図2 日琉祖語のPを語頭を含む単語の有根系統樹

#### 【期待される成果と意義】

言語系統樹を基に行う琉球語の比較言語学的研究は、日本語の歴史研究および方言研究に新たな方法論を提案し、日本語の歴史研究に貢献する。

#### 【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・狩俣繁久 (2016) 「琉球方言の言語地理学と動的系統樹」『シークワサーの知恵』 pp113-144、京都大学出版会。

#### 【研究期間と研究経費】

平成29年度-33年度、135,600千円

#### 【ホームページ等】

なし